

アニメ作品における話し言葉

—若者向けアニメ作品を対象に—

岩崎 麻琴

1. はじめに

日本のアニメ作品は、子供から大人まで多くの人の心を惹きつけている。ストーリー、キャラクター、世界観など、心を惹きつける要因は様々あるが、「話し言葉」もその一つではないだろうか。人物の個性、環境によって、話し言葉は様々である。アニメにおいてもそれは同じで、同じ作品の中でも、一人一人のキャラクターが違う話し言葉を使用している。アニメは、幼児向けから大人も楽しむ全年齢対象のものまで様々なものがあるが、視聴者層の違いによって、アニメの話し言葉も違っているのではないかと考えた。本稿では、数多くあるアニメ作品のなかでも、調査が行われていない、20代～30代の若者を視聴者層とし、現実を舞台にしたアニメ作品を分析する。

2. 先行研究

佐竹（2003）では、しぐさや表情と共にことばを伝えるテレビは、疑似的に対面コミュニケーションを経験させるもので、人間に与える影響は大きいとしている。佐竹氏は、幼児向けアニメはこどもの「女ことば／男ことば」規範意識の形成に重要な役割を果たしているとし、幼児や小学校低学年児童向けのアニメーションを調査している。そして調査の結果をもとに、文末表現形式を女に多い「f指標形式」、男に多い「m指標形式」に分類した。分類については以下の通りである。

【f指標形式】

- ①ダを使用しない断定・説明、命令、疑問詞疑問の文、ザマスを用いる文
- ②デショ（ウ）を用いた推量・確認の文
- ③カを用いない普通体疑問文（カの付加可能なもの）、カシラを用いる疑問文
- ④動詞テ形による行為要求表現
- ⑤ワを用いる文

【m指標形式】

- ①ダ (ダワ・ダワネ・ダワヨを除く)・ジャを使用する文
- ②ダロ (ウ) を用いた推量・確認の文
- ③カ・ダイを用いる普通体疑問文
- ④一般動詞命令形を用いる文
- ⑤ゾ、禁止ナ、聞き手めあてナ、ゼ、トモ、サを用いる文
- ⑥「用言述語+ヨ」の文

子供向けアニメでは、ことばづかいは性別によって二種類存在していて、その評価基準は女と男では異なるというメッセージを子どもたちに伝えている。子どもたちはアニメを日々視聴することによって、ことばづかいに性差が存在することを自然のこのように感じる心性が育つのだ。

平野 (2007) では、佐竹 (2003) で提案された分類方法である「f 指標形式」「m 指標形式」をもとに、世界中で人気の高い日本の宮崎駿監督作品のヒロインや、ウォルト・ディズニー社制作のアニメ映画のヒロインの話し言葉 (日本語に訳されたもの (字幕による)) を分析した。調査の結果では、宮崎駿監督作品の女性キャラクターは中性的な話し言葉を使用し、ディズニー作品の女性キャラクターはきわめて女性的な話し言葉を使用するという調査結果が出ている。ディズニー作品の女性キャラクターに「f 指標形式」が多く現れたのは、「守られるお姫様」という可憐で女性らしいイメージを表現するためだと述べている。

上でまとめたように、アニメーション作品において女性らしい話しことばは、幼児や小学校低学年児童に言葉の性差を感じさせる役割や、お姫様などの非現実的、又は極めて女性らしいイメージを強調させる手段として用いられていると考えられる。

本稿では、以上2本の先行研究をふまえて、同様に「f 指標形式」「m 指標形式」を使用しつつ、若者向けのアニメ作品の話し言葉について調査していく。

3. 調査

3.1 調査対象

分析には、以下の4作品を選定した。

- A. 「けいおん！」 (2009年9月放送、京都アニメーション)
- B. 「氷菓」 (2012年4月放送、京都アニメーション)
- C. 「Free!」 (2013年7月放送、京都アニメーション)
- D. 「響け！ ユーフォニアム」 (2015年10月放送 京都アニメーション)

若者をターゲットにした作品を選ぶために、「キャラクターの年齢層が10代～20代」「放送時間帯が子供（幼児から小学生）が観ない夜間のもの」、また、日常生活を舞台にした作品を選ぶために、「戦闘など非現実的なものが出現しないもの」を条件に選定した。また、数多くある若者向けのアニメ作品のなかでも、高校時代を舞台にしたものを扱う。

f/m指標形式を提案した佐竹（2003）では、データに使用しているキャラクターの中で、最低発話数が51であったため、対象発話数はこの数字を目安にする。各4話までに殆どのキャラクターの総発話数が51を超していたが、数人超えないキャラクターもいたため、それらのキャラクターのみ例外的に5話以降も51をこえるまで収集を続けた。

4作品のストーリー、調査対象であるキャラクターについては、以下にそれぞれまとめた。（ ）内に性別を記してある。

A. 「けいおん！」の登場人物

平沢唯（女）→マイペースでドジっ子な女の子。可愛いものや甘いものが大好き。感情が表に出やすく、優柔不断な一面がある。

田井中律（女）→軽音部部長。明るく、非常に積極的な女の子。

秋山澪（女）→幼い頃から恥ずかしがり屋で人見知りだが、幼馴染の律の提案で男勝りな口調で喋る。

琴吹紬（女）→大企業の社長令嬢で、各地に別荘を保有するほどのお嬢様。おっとりとしていて、とても穏やかな性格をしている。

B. 「氷菓」の登場人物

折木奉太郎（男）→何事にも最小限の力で対応する。愛想がなく、面倒事を避けようとするが、千反田えるの好奇心の強さに負けて巻き込まれていく。

千反田える（女）→豪農で有名な千反田家の令嬢。清楚な見た目で、お嬢様らしい振舞いをする。

福部里志（男）→奉太郎の親友。古典部の他にも手芸部・総務委員会に所属するなど、奉太郎とは対照的に活発で社交的な性格。

伊原摩耶花（女）→奉太郎の幼馴染。里志に好意を寄せる。苛烈な一面を持ち、自他を問わず手厳しく、何事にも妥協を許さない。

C. 「Free!」の登場人物

- 七瀬遥 (男) →表情があまり変わらず、愛想がない。競泳の才能があり、「水」や「泳ぎ」に対して強いこだわりを持つ。
- 橘真琴 (男) →遥の幼馴染であり、親友。弟や妹の面倒を見たり、部活の仲間を見守ったりと、面倒見の良い性格。
- 葉月渚 (男) →天真爛漫な性格。自由な発言をしつつも、周りのことをよく考えている。何に対しても真っ直ぐな性格。
- 竜ヶ崎怜 (男) →理論と計算でスポーツに対して向き合い、そこから導かれる美しさを重んじるという、独自の美意識を抱いている。
- 松岡凛 (男) →かつてはとても明るく社交的だった。しかし水泳で挫折したことが原因で苦しみ、棘のある雰囲気を纏わせるようになった。

D. 「響け！ユーフォニアム」の登場人物

- 黄前久美子 (女) →セーラー服に憧れて高校を選ぶ。流されやすい性格で、思ったことを思わず口に出してしまう。
- 加藤葉月 (女) →行動的で、明るく元気なムードメーカー的存在。
- 川島緑輝 (女) →吹奏楽の名門でお嬢様校の聖女中等学院の出身。前向きな性格。
- 高坂麗奈 (女) →ストイックでクール。「特別」になりたいと思っている。

3.2 調査・分析方法

まず、佐竹 (2003) の f/m 指標形式による分類を行った。その結果、若者向けのアニメ作品を調査するうえでいくつかの不十分な点を発見したため、以下に、調査で判明した問題点と、その改善策の方向性を記した。

- ・ f 指標形式に含まれている「①ダを使用しない断定・説明、命令、疑問詞疑問の文」、「③カを用いない普通体疑問文 (カの付加可能なもの)」は、男性キャラクターも多く使用するため、男女共に使用する新しい指標形式の項目の作成を提案する。
- ・ m 指標形式の「①ダ (ダワ・ダワネ・ダワヨを除く) を使用する文」という項目は、「～だよ」という女性も頻繁に使う表現も含まれてしまうため、上と同様に新しい指標形式の項目の作成を目指す。
- ・ 多く使用される敬語、「～ね」がその他に分類され、「その他」の割合が高くなってしまったため、「f/m 指標形式」水本他 (2006) の「二項対立表」を用いながら、

項目を見直す。

水本他（2006）「二項対立表」

女性文末詞使用系	不使用形 (neutral)
かしら(ね)	かな、だろう(ね)、だろうか(ね)、つけ(ね)
N+ね、ナA+ね、等	N+だね、ナA+だね、等
N+よ(よね)/疑問詞+よ等、ナA+よ(よね)	N+だよ(だよね)/疑問詞+だよ等、ナA+だよ(だよね)
{V / IA / ナA / N}+のよ	{V / IA / ナA / N}+んだよ
～わ /～わね /～わよ(わよね)	「わ」のない文末 / ～ね /～よ(よね)

提案する新しい分類方法を以下に記した。「ダ」を使用しない表現は男女ともに多く使用されることから、男性らしい言葉遣いには含めないこととし、二項対立表を参考に、「ダ」のない文末と項目を改め、中性的指標形式とすることにした。「～だよ」「～だね」など、女性男性どちらも使いやすい表現がとても多いため、二項対立表を取り入れ、中性的指標形式として分類方法に取り入れた。極端に敬語を使用するキャラクターが各アニメに一人ずつ見られるため、敬語は項目を分けることにした。

本稿で設ける新指標（太字は、「f/m指標形式」から変更した部分である）：

【f'指標形式】

- ①名詞・副詞+ネ・ヨ、～ノヨ、～ノネ 等
- ②デショ（ウ）を用いた推量・確認の文
- ③～カシラ
- ④動詞テ形による行為要求表現
- ⑤ワを用いる文

【中性的指標形式】

- ①～カナ
- ②～ダネ
- ③～ダヨ（ネ）、疑問詞+ダヨ等
- ④～ンダヨ
- ⑤「ダ」「ワ」のない文末 / ～ネ /～ヨ
- ⑥カを用いない疑問文（カの付加可能なもの）、疑問詞疑問の文

【m'指標形式】

- ①～ダ、ジャを使用する文
- ②～ダロ（ウ）

- ③カ・ダイ・カイを用いる普通体疑問文
- ④一般動詞命令形を用いる文
- ⑤ゾ、禁止ナ、聞き手めあてナ、ゼ、トモ、サを用いる文

【敬語】

敬語を使用する文（～デスネなど、ネを含んでいても敬語を使用している場合はこちらに含む）

【特殊】

特殊な表現（頻繁に使用しない「～ザマス」など）

以下に、もとの f / m 指標形式と、新しく設けた f' / 中性 / m' 指標形式を対比しながら、各作品ごとの分析を行う。佐竹（2003）の指標を「旧指標」、本稿で設けた指標を「新指標」として記述する。

3.3 調査結果

A. 「けいおん！」

表1 旧指標による「けいおん！」分類結果

	総数	f 指標形式					m 指標形式						その他	
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥		
平沢唯(女)	176	52	2	21	5		33	1					4	58
田井中律(女)	161	39		15	6	3	19	3	3	6	36	4	27	
秋山澪(女)	127	20	2	16	3		19	5	4	4	25	5	24	
琴吹紬(女)	71	12		10	3	3	1					1	41	

表2 新指標による「けいおん！」分類結果

	f 指標形式					中性的指標形式						m 指標形式					敬語	特殊	総数
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤			
平沢唯(女)		2		5	1	10	5	17	2	74	29	10	1				14	6	176
田井中律(女)	1			6	1	2		6	4	42	23	11	4	3	6	37	5	10	161
秋山澪(女)	2	2		3		5		4	3	32	22	11	5	6	4	23	3	2	127
琴吹紬(女)	7	1	2	3	3		1			13	10						31		71

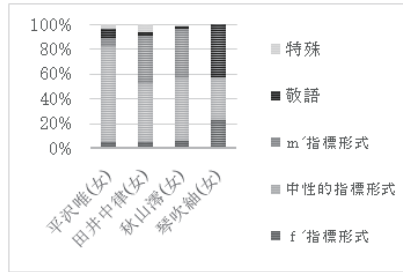
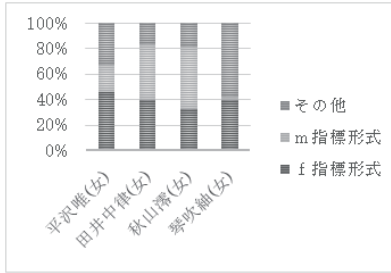


図1 旧指標による「けいおん！」分類結果 図2 新指標による「けいおん！」分類結果

図1を見てみると、「f 指標形式」と「その他」が多い平沢唯と琴吹紬、「m 指標形式」と「f 指標形式」が多い田井中律と秋山澪の二つのパターンに分かれている。

それぞれのキャラクターを順番に見て行くと、まず、平沢唯は「やめようかなあ…。」や「分かんないけどね…。」など、「かな」「ね」の使用が目立ち、断定しない曖昧な発言が多いため、どちらの指標形式にも属さない「その他」が多い結果となった。かわいいものが好きという女の子らしさはあるが、マイペースな面が強く、話し言葉にはそれが現れていると言える。新指標では「～ね」「～よ」「～だよ」「～だね」を「中性的指標形式」としたため、「中性的指標形式」が多い結果となった。「そんな、悪いよ…。」「じゃあ帰るね。」など、女性も男性も使用できる話し言葉を使用するため、「中性的指標形式」が多い結果は納得できる。ただ、文字で見ると男性も使える話し言葉だが、耳で聞くとおっとりとした柔らかい口調のため、中性的な話し言葉でも可愛らしく聞こえる。

琴吹紬の旧指標における「その他」の多さは、敬語がその他に含まれるためである。彼女は常に敬語で会話をし、「f 指標形式」においても唯一「かしら」の使用が見られるなど、極めて女の子らしいキャラクターと言える。おっとりしたお嬢様で、4人の中で最も女性らしい。このように、「その他」が多いという一見同じ結果に見えても、その中身は内容が大きく違うことが分かる。新指標では、「敬語」という項目を作ったため、どのような話し言葉なのか分からなかった「その他」の多さがなくなり、改善が見られた。4人の中では一番「f 指標形式」が多く、お嬢様らしい丁寧な言葉遣いのキャラクターのため、結果に納得できる。ゆっくりと、優しく話すため、文字で見ても穏やかな話し言葉だと分かるが、耳で聞いてもかなり綺麗で丁寧な印象を受ける。

次に田井中律と秋山澪を見る。田井中律はとても大雑把な性格で、細かいことが嫌い

な女の子である。語尾に「～ぜ」「～だな」をつけたりと、4人の中では一番男らしさがあるキャラクターだ。旧指標では、「ドラムの田井中律!」「全然オッケー!」など、彼女のさっぱりとした発話の特徴である「ダ」を使用しない断定が「f指標形式」に含まれてしまったため、女の子らしい発話であるかのような結果になってしまったが、新指標ではそれが改善され、「中性的指標形式」「m'指標形式」が多い結果となり、納得できた。

秋山澪は、男らしい性格なわけではないが、「悪かったな」「嘘だ」などの男性らしい言葉が多いのは、幼少期、人見知りを緩和すべく、幼馴染の田井中律から男らしい言葉を話すように提案されたためである。そのためか、田井中律と大変似た割合になっている。ただ、「m'指標形式」の中の割合を表で見ると、⑤が少ないことが分かる。「ぜ」や「ぞ」を使用する田井中律と比べて、秋山澪にはそれがなく、「ぜ」や「ぞ」という男性らしい表現は、意識して女性が使用するには抵抗がある表現なのだと考えた。旧指標では、やや女性らしいような結果だが、新指標では、作った男らしい言葉と、男女ともに使用するような中性的な話し言葉という、キャラクターの設定通りの結果となった。

B. 「氷菓」

表3 旧指標による「氷菓」分類結果

	総数	f指標形式					m指標形式						その他
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	
奉太郎(男)	225	40		10			52	27	29	7	50	5	5
える(女)	232		8	5					2				217
里志(男)	182	20		13	3		57	4	6		14	16	49
摩耶花(女)	97	32	5	26	2	11	1		1		2	1	16

表4 新指標による「氷菓」分類結果

	f指標形式					中性的指標形式						m指標形式					敬語	特殊	総数	
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤				
奉太郎(男)											54	11	45	26	30	7	51		1	225
える(女)		6										8			1			217		232
里志(男)				3		2	12	16	3	79	13	22	3	14			14	1		182
摩耶花(女)	23	5	3	2	12	1				21	22	1		1			2	4		97

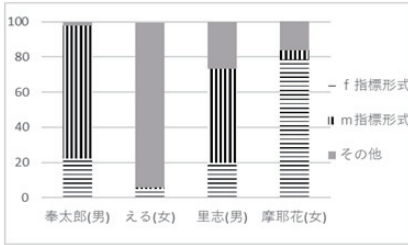


図3 旧指標による「氷菓」分類結果

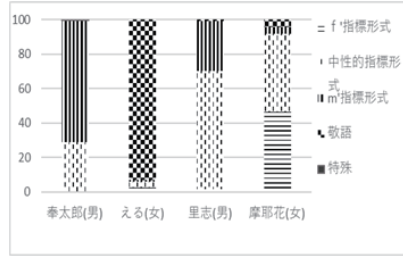


図4 新指標による分類結果

図3を見ると、奉太郎と里志は共に男性だが、その出現割合は大きく異なっている。断定の表現において、奉太郎は「手短にだ。」「それは一年生の発想だ。」と「ダ」のものを多く使用するのにに対し、里志は「手紙だね。」「ジョークだよ。」など、「ね」「よ」を文末につける柔らかい表現が多かった。疑問の表現でも、奉太郎は「知ってるか？」と「カ」を使用し、里志は「それだけ?」「古典部!？」と「カ」を付けない。奉太郎は、人付き合いなどを面倒だと考えているため、話し方に他者を寄せ付けない雰囲気がある。「m指標形式」の多さは、男性らしさというより他者を寄せ付けない雰囲気を出す役割があるのかもしれない。反対に、里志は冗談をよく言う、明るいおしゃべりな性格だ。奉太郎と対極とも言えるイメージを表現するため、里志の喋り方は語尾に「だね」や「だよ」を使用したり、疑問文においても「カ」を付けなかったり、「〜かい?」と柔らかくしている。このキャラクターの話し方は、女性でも使用できる話し方が多く、中性的だと感じた。また、奉太郎の「f指標形式」の出現についてだが、「モットーに忠実なだけ。」と突き放すような話し方で「ダ」を意図的に省略しているために現れている。「ダ」を使用しない断定のため「f指標形式」に含まれるが、女性らしい言葉というわけではない。新指標では、これを「中性的指標形式」にしたため、改善が見られた。このキャラクターは低い声で淡々と話すため、男性らしい話し言葉がとても冷たく静かな印象である。

佐竹 (2003) による分類方法は、女性らしいか男性らしいか、どちらかに寄った話し言葉でないと結果が明確に出ず、若者向けのアニメで多く使用される、福部里志のような中性的な話し言葉を使用するキャラクターの分類は難しいと感じた。里志は、旧指標ではどの割合も同じぐらいで、男性らしい話し言葉寄りであるような結果だったが、新指標では「中性的指標形式」が増えた。彼の人当たりの良いおしゃべりな性格が表され

ている話し言葉は、男性も女性もどちらも使用できる言葉のため、結果の通りと言える。また、「中性的指標形式」を明るい口調で使用すると、とても社交的な印象を受けることが分かった。

千反田えるの結果を図3で見ると、「その他」が圧倒的で、一見どのような話し方をしているのか分からない。千反田えるは名家のお嬢さんで、終始敬語で話すため、「その他」が高い要因となってしまったのだ。新指標では「敬語」という項目を作ったことで改善された。明るく話すが、お嬢様らしく丁寧で、敬語を多用しているものの、大人っぽくはなく、可愛らしい印象を受ける。

伊原摩耶花は、「ワ」や「ノヨ」など、女性らしい文末表現を多用するため、旧指標の「f指標形式」の割合がとても高い。新指標においても、彼女は調査した中で一番「f指標形式」が多いキャラクターとなった。伊原摩耶花は、同級生に恋をする女の子という点では女性らしいが、幼馴染の奉太郎にはとてもきつく接し、非常に毒舌である。佐竹(2003)や平野(2007)のアニメの調査では、女性らしい話し言葉のキャラクターは可愛らしい性格の女の子が多く、女性らしい話し言葉は柔らかいもの、というイメージを持っていた。しかし、伊原摩耶花の「会いたくなかったわ。」「遅かったわね。」などの女性らしい発話と、相手を馬鹿にしたような話し言葉や、強い話し言葉はとても合っていると感じて、個性をととてもよく出している。

C. 「Free！」

表5 旧指標による「Free！」分類結果

	総数	f指標形式					m指標形式						その他
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	
七瀬遥(男)	90	36		2			16	6	3	13	12		2
橘真琴(男)	141	14		29	5		28	8	5	1	10	5	36
葉月渚(男)	186	22	3	38	10		48	3			4	17	41
竜ヶ崎伶(男)	84	9	5	1			11		3				55
松岡凛(男)	54	4		4			14	3	3	5	10	3	8

表6 新指標による「Free！」分類結果

	f指標形式					中性的指標形式						m指標形式					敬語	特殊	総数
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤			
七瀬遥(男)								2	36	2	14	6	3	13	12			2	90
橘真琴(男)			5			3	3	5	5	45	25	15	9	5	1	11	9		141
葉月渚(男)		3		10		9	9	18	4	65	36	17	3			3	7	2	186
竜ヶ崎伶(男)		5						1		8	2	9		2				57	84
松岡凛(男)									1	9	3	12	3	3	5	10		8	54

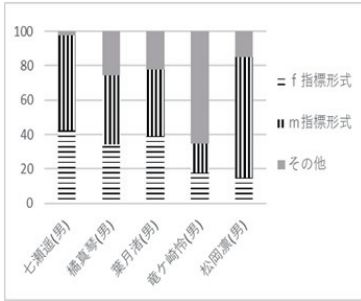


図5 旧指標による「氷菓」分類結果

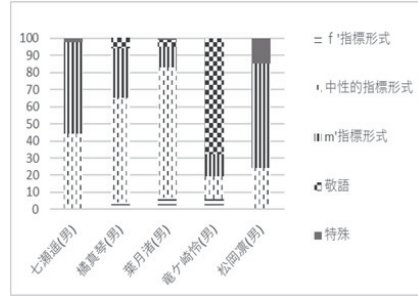


図6 新指標による分類結果

まず、七瀬遥について考察する。七瀬遥は、静かで愛想がなく、独自の価値観の中で生きるキャラクターのため、短く強い喋り方だ。断定の表現では「油が飛ぶのは嫌だ。」「塩じゃなくて砂糖だ。」と「ダ」を多く使う。そして、「氷菓」の奉太郎と同じく、突き放すように「じゃあ幽霊。」「じゃあドッベルゲンガー。」など、ダを使用しない断定のため、旧指標では、女性らしいとはいえない話し言葉であるにも関わらず、「f 指標形式」の①項目が多くなってしまった。新指標では、「中性的指標形式」と「m 指標形式」の割合が非常に高くなった。面倒を嫌がるとき、拒絶するときなど、このキャラクター特有の状況で「m 指標形式」があらわれ、それ以外の素っ気ない話し方は中性的に分類された。「氷菓」の折木奉太郎と同じく、静かに話すため、他の登場人物より冷たい印象を受ける。

次に、橘真琴と葉月渚について見てみる。図5を見ると、二人のグラフは、割合がとても似ていることが分かる。2人は男性キャラクターにも関わらず、「f 指標形式」の使用が多い。注目したのは、③の疑問の表現についてだ。「寒くないの？ (真琴)」、「面白そうだと思わないの！？ (渚)」など、「～の？」の文末表現が、2人に共通して非常によく使われていた。そして、「仕方ないよ」「ありがとうね」など、文末に「～よ」「～ね」が多いため、「その他」の割合が高くなる。橘真琴は、穏やかで優しい性格で、口調が柔らかいのが特徴的だ。優しい男性を表現するために、「f 指標形式」が多く使用されているのだろう。しかし、高校二年生の男子らしく、「嘘だろ！」と男性らしい表現も稀に見られた。葉月渚は、子供っぽい無邪気な性格で、「見て？ → f 指標形式の④」「同じ名前でしょ。→ f 指標形式の②」と幅広い項目において f 指標形式が使われている。2人がよく使用する「f 指標形式」「m 指標形式」の表現は、男女関係なく使

用できる表現が多いと感じた。旧指標では、「その他」・「f 指標形式」の割合が高くなったキャラクターであり、出現割合が似ていた。しかし性格を考えると、橘真琴は優しく、兄のように他の仲間を見守っているのに対し、葉月渚は天真爛漫で、周囲を振り回すような言動が目立つ。2人は対照的とも言える。新指標では違いが見られた。「m' 指標形式」を比べると、橘真琴が葉月渚の二倍となっており、その分、「中性的指標形式」は葉月渚の方が多い。また、「f' 指標形式」はやや葉月渚の方が多くなった。二人とも社交的で明るい性格のため、「～よ」「～ね」などの中性的指標形式を文末に使用することで、言葉にも柔らかさを出していた。その一方で、橘真琴は年上らしく周囲に言い聞かせるときは「だったらダメだろ?」と「m' 指標形式」を使用した。葉月渚は、「来て!」「言ったでしょ?」など、他者に反応を求めたり、確認したりするときに「f' 指標形式」を使用した。また、このキャラクターは唯一「だもん」という形式を使用したため、「特殊」に分類した。橘真琴は穏やかに話すため、とても優しい印象を受けるが、葉月渚は常に明るく話すため、元気が伝わってくる。文字にすると似た話し言葉だが、話し方によってイメージが大きく変わる。

松岡凜は、棘のある性格をしているが、それが話し言葉にも現れていて、「～だ」「～ぜ」や一般動詞命令形などが多い。新指標による調査の中では珍しく、「m' 指標形式」が圧倒的に多い結果となった。また、「f 指標形式」①の変更により、「f 指標形式」の割合が消えたことが分かる。他者を突き放すような性格の鋭さが、命令形や断定のダの使用で言葉に表れている。苛立ちをこめて静かに話したり、怒りをこめて声を荒げて話すため、男性らしい話し言葉がとても鋭く聞こえる。この鋭さは、「中性的指標形式」では表現できないと感じた。

竜ヶ崎怜は、「敬語」を非常に多く使用するキャラクターだ。女性が使用する敬語とは雰囲気の違い、穏やかさや可愛らしさはなく、個性の強さを感じる。また、「なかでも棒高跳びはその美しさが際立つスポーツだ。」「だから僕は泳がないって言ったんだ!」など、自分の主張を強くするときは、敬語ではなく「ダ」を使用して断定する。敬語は、冷静に話しているときに自分を美しく着飾るように使用し、自分の考えを相手に強く伝えたいときは、素が出ているのではないだろうか。

D. 「響け！ユーフォニアム」

表7 旧指標による「響け！ユーフォニアム」分類結果

	総数	f 指標形式					m 指標形式						その他
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	
久美子(女)	125	23	5	15	3		17	3				9	40
葉月(女)	94	5	3	24	2		27		1	1	2	5	34
緑輝(女)	79	1			1								77
麗奈(女)	67	26	7	15	1		2						16

表8 新指標による「響け！ユーフォニアム」分類結果

	f 指標形式					中性的指標形式					m 指標形式					散語	特殊	総数
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤			
久美子(女)	5	1	3			3	2	18	2	49	14	4	3			17	4	125
葉月(女)	3		1			4	1	6	1	44	16	8		1		2	9	94
緑輝(女)				1		1				1							76	79
麗奈(女)	7		1			1			1	31	19	1				6		67

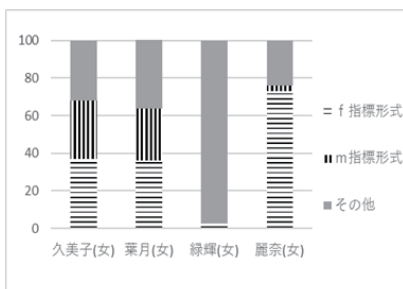


図7 旧指標による分類結果

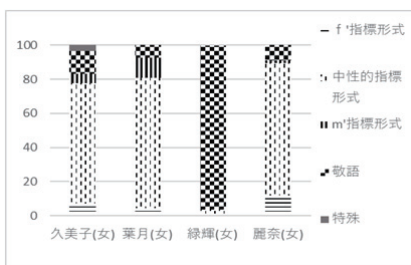


図8 新指標による分類結果

この4人は、全体的に「m指標形式」が少ない結果となった。「m指標形式」の出現は少数見られるものの、「チューバのゆるきやらだよ。(久美子)」という「～だよ。」「～だね。」の男女関係なく使用できる柔らかない表現のみであった。新指標では、4人に共通して、女性キャラクターでありながら、「f'指標形式」が非常に少ない結果となった。唯一見られた「f'指標形式」についても、「昨日もそう言ってたでしょ。(加藤葉月)」「その方が他の楽器に移りやすいでしょ？(黄前久美子)」「かしてみて(黄前久美子)」など、「f'指標形式」のなかでも②と④の、女性らしいというより自然な話し方といえる項目のみ見られた。

黄前久美子・加藤葉月・高坂麗奈の3人の割合は似ていて、新指標によると「中性的指標形式」の割合が高い。「～ね」「～よ」が多く、現実の女の子に近い話し方だと感じた。加藤葉月が僅かに「m'指標形式」が多いが、「けいおん！」の田井中律までではないものの、何事にもはっきりとした態度をとり、サバサバしている加藤葉月の性格が出ていると考えられる。黄前久美子、高坂麗奈の発話は共に、現実の女の子が使用しても自然な発話で、男性らしさも女性らしさもあまりない現実の言葉に近い結果となったのは納得である。しかし、割合は似ているものの、加藤葉月はかなり明るく、高坂麗奈は静かに話すため、耳で聞くとまったく違う印象を受ける。

最も女性らしいと感じたのは川島緑輝という、旧指標の「その他」が圧倒的に多いキャラクターだ。お嬢様校出身で、ふわふわとした優しい性格の緑輝は、敬語を常に使用する。話し方としては、「けいおん！」の琴吹紬や、「氷菓」の千反田えるととても似ている。敬語を多く使用するキャラクターで、彼女のお嬢様で女の子らしい特徴が現れている。おっとりとして優しく話すため、「けいおん！」の琴吹紬と同じく、とても可愛らしい印象を受ける。このキャラクターの純粋で優しい性格は、「敬語」とおっとりとした口調という綺麗な話し方だからこそ表現できるものだと考えた。

4. 分類結果から見た、若者向けアニメ作品の発話の考察

4.1 女性キャラクターのf'指標形式の使用

アニメではなく、現実の若い女性の話し言葉について考えてみると、発話の相手が友人であっても目上の人であっても、女性らしい「～だわ」「～なのよ」などの文末形式を使用している人は珍しい。

佐竹（2003）による幼児向けアニメの調査では、ほとんどの女キャラクターが「f'指標形式」を総発話数の60%近く使用しており、また、ディズニー作品のプリンセスについて調査している平野（2007）では、90%近くの使用が見られた。

今回調査した4作品17人の男女のキャラクター（うち、女キャラクター10人）のなかで、「f'指標形式」の使用が多く見られたのは、「氷菓」の伊原摩耶花のみであった。他の女性キャラクターが殆ど使用しない、もしくは20%ほどなのに対し、伊原摩耶花は約50%の「f'指標形式」の使用が見られた。若者向けのアニメで女性らしい話し言葉を使用する場合、何か理由はあるのだろうか。

末尾の（ ）内は発話の相手

- ・こんな陰気な男、ナメクジの方がまだましよ。だいたい福ちゃん、私の気持ちを知っててよくそんな冗談が言えるわね！（→福部里志）
- ・古典部、なかったと思うけど、表にないなら書庫かしら。（→千反田える）
- ・まあ折木がいくら知恵を絞ってもそんなところよ。（→折木奉太郎）
- ・文集だわ。あんたこれどうやったの！？何か知ってたの！？（→折木奉太郎）
- ・何よ。言うなと言われれば喋らないわよ。（→折木奉太郎）

伊原摩耶花は、苛烈な一面を持ち、自他を問わず手厳しく、何事にも妥協を許さない性格だ。2つ目の千反田えるに対する発話以外は、音声的にもとても強い喋り方をしており、1つ目と3つ目の発話は文字だけを見ても、その鋭い性格が分かるだろう。喋り口調が強く、表情も鋭いことが多いため、これらのことが余計に話し言葉のきつい印象を強めている。

私は、このキャラクターが「f'指標形式」を使用する理由として、2つのことを考えた。1つは、性格の鋭さを表すために使用している、という理由であり、もう1つは、個性を際立たせるためではないか。試しに、伊原摩耶花の発話を、今回4作品の調査をしたなかで多く使用が見られた「中性的指標形式」に置き換えてみた。

- ・こんな陰気な男、ナメクジの方がまだましだよ。だいたい福ちゃん、私の気持ちを知っててよくそんな冗談が言えるね！（→福部里志）
- ・古典部、なかったと思うけど、表にないなら書庫かな。（→千反田える）
- ・まあ折木がいくら知恵を絞ってもそんなところだよ。（→折木奉太郎）
- ・文集だよ。あんたこれどうやったの！？何か知ってたの！？（→折木奉太郎）
- ・何。言うなと言われれば喋らないよ。（→折木奉太郎）

内容はそのままだが、文末が変化するだけで、前と比べて柔らかく感じられる。「f'指標形式」を使用している場合だと、他者を突き放したり、発話の相手に激しく言っている印象が強い。とくに1つ目の発話例では、「まだましよ」だと怒っているように感じるが、「まだましだよ」だと勢いが失われる。中性的な話し言葉では、伊原摩耶花の鋭い性格が表現できていたとは言えず、また、発話の個性が失われてしまった。伊原摩耶花が登場する「氷菓」は、メインキャラクターに非常に素っ気ない話し言葉の折木

奉太郎、明るく中性的な話し言葉の福部里志、敬語を多く使用する千反田えるがいる。置き換えた後の話し言葉では、特徴的な他のキャラクターの話し言葉の中で埋もれてしまうだろう。以上のことから、女性キャラクターによる「f'指標形式」の使用は、鋭い性格を表現するための道具として使用されており、個性を際立たせる効果があると考えられる。

4.2 男性キャラクターのm'指標形式の使用

今度は、男性キャラクターが「m'指標形式」を使用することについて考えてみる。調査したキャラクターの中で「m'指標形式」が多い結果となったのは、「氷菓」の折木奉太郎と「Free!」の松岡凜だった。現実で「m'指標形式」を使用すると、「不良」のようなイメージを抱くことが多く、あまり良い印象はない。

二人の特徴と発話例をあげて、「m'指標形式」の使用について考察していく。

末尾の（ ）内は発話の相手

①「氷菓」折木奉太郎

- ・まあいい。先に帰れ。(→福部里志)
- ・どこがだ。自分で閉めたこと忘れたんだろう。(→福部里志、千反田える)
- ・そういう事情があるなら先に言え。分かったやるよ。それで文集ってのはどんな内容なんだ。(→千反田える)
- ・それで何か用だったか？なんのためにこの店まで呼び出したのかって聞いてるんだ。(→千反田える)

②「Free!」松岡凜

- ・まさか、ここでお前らと会っちゃうとはな。(→七瀬遙、橘真琴、葉月渚)
- ・ああ、見せてやるよ。ただし、あの時と同じ景色じゃねえ。違う景色だ。(→七瀬遙)
- ・相変わらず、何考えてるか分かんねえやつだぜ。(→七瀬遙)
- ・似鳥、お前、本気でそう思ってんのか？あいつら水泳部作ったばっかで、まじめに練習してなかったんだ。身体を見りゃ分かる。まったくできてねえ。(→後輩)

まずキャラクターの特徴についてそれぞれ見てみると、折木奉太郎は愛想がなく、面倒事を避けようとする性格で、松岡凜はとても棘があり、苛立つシーンが多々あった。

どちらも共通して社会的とは言えず、他人を突き放すような態度を頻繁にとる。

4.1で女性キャラクターの「f'指標形式」の使用について述べたが、男性キャラクターの「m'指標形式」の使用においても、鋭い性格を表現するための道具として使用されていて、個性を際立たせる効果があると言えるのではないだろうか。2人の他人を突き放すような性格は、ストーリーのうえで周囲の行動に影響を及ぼす重要な役割を担っており、個性が埋もれてしまえばストーリーに厚みがなく淡々としてしまうだろう。

4.3 中性的指標形式の高い割合について

4作品のキャラクターの発話を、大きく5つのグループに分けてみると、以下のようになる。

1) f'指標形式と中性的指標形式が同じぐらい

女：伊原摩耶花（氷）

2) 中性的指標形式が多い

女：平沢唯（け） 黄前久美子（響） 加藤葉月（響） 高坂麗奈（響）

男：福部里志（氷） 橘真琴（F） 葉月渚（F）

3) m'指標形式と中性的指標形式が同じぐらい

女：田井中律（け） 秋山澪（け）

男：七瀬遙（F）

4) m'指標形式が多い

男：松岡凛（F）

5) 敬語が多い

女：琴吹紬（け） 千反田える（氷） 川島緑輝（響）

男：竜ヶ崎怜（F）

「中性的指標形式が多い」キャラクターが7人でもっとも多い。ここでは、若者向けのアニメ作品でよく使われる中性的指標形式について考えていく。

末尾の（ ）内は発話の相手

① 「けいおん！」平沢唯（女）

・そうだね。やっぱりギターって弾くものだね。ただ大事にしてるだけじゃ可哀

想だよ。 (→田井中律、秋山濤、琴吹紬)

②「氷菓」 福部里志 (男)

・ほらね。でもね、この多彩な部活動の伝統神山高校で部活にも入ってない奉太郎は結果から見れば灰色そのものってことだよ。(→折木奉太郎)

③「Free！」 橘真琴 (男)

・本当に良いの？俺たちだけじゃなくて、ハルもちゃんと部員になるんだよ？ (→七瀬遙)

④「Free！」 葉月渚 (男)

・それがさ、酷いんだよ？4年ぶりだったんだよ？なのに凜ちゃんたらいきなりハルちゃんに勝負ーとか言って僕たちのことなんか完全にスルー！つもる話なんか全然なし！ (→松岡凜の妹)

⑤「響け！ユーフォニアム」 黄前久美子 (女)

・だからややこしくなるんだよ。大人はずるいよ。(→幼馴染の先輩)

⑥「響け！ユーフォニアム」 加藤葉月 (女)

・ダブってるから一個あげるって子がクラスにいたよ。(→川島緑輝)

⑦「響け！ユーフォニアム」 高坂麗奈 (女)

・そっちの机、よろしくね。(→黄前久美子)

これらのキャラクターの話し言葉は、男性でも女性でもどちらが使用しても違和感のないのが特徴である。文末に「ね」や「よ」を多く使用し、現代の日本の若者に近い話し言葉と言えらる。また、ここに分類されたキャラクターは、社交的で人の輪に馴染みやすい性格が多く、現実の若者に近い平凡な特徴を持っている。このことから、若者向けのアニメでは、キャラクターに親近感を抱かせる話し言葉が好ましいと考えられているのではないだろうか。

幼児向けアニメが子供への「教育」的な面があるとすれば、若者向けのアニメにそれはない。また、幼児向けのアニメは、誰もが知っているような長寿作品が多いが、若者向けのアニメは人気度・知名度を上げていくために、より多くの視聴者を獲得しなければならない。視聴者の心を惹きつけるためには、視聴者の共感を呼ぶような魅力的な作品である必要がある。そのため、若者が親近感を抱くことが出来るように登場人物を描いているのではないだろうか。

4.4 若者向けアニメにおける敬語使用

「けいおん！」の琴吹紬（女）、「氷菓」の千反田える（女）、「Free！」の竜ヶ崎怜（男）、「響け！ユーフォニアム」の川島緑輝（女）は「敬語」の使用がとても多いことが分かる。何故、このように敬語を極端に使用するキャラクターが出現するのだろうか。

以下は、敬語を多く使用するキャラクターの発話例で、末尾の（ ）内は発話の相手である。

- A. 「けいおん！」琴吹紬（女）・・・おっとりしたお嬢様。別荘がある。
- ・ 1週間以内にあと一人入らなかつたら、廃部になるところだったんです。（平沢唯）
 - ・ なんか懂れます！（→平沢唯、田井中律、秋山澪）
 - ・ 私やってみたいです！（→平沢唯、田井中律、秋山澪）
 - ・ ファーストフードはどうですか？（→平沢唯、田井中律、秋山澪）
- B. 「氷菓」千反田える（女）・・・名家のお嬢さんで、穏やかな性格。
- ・ 私、一年A組なんです。（→折木奉太郎）
 - ・ 私が来たとき、この部屋の鍵は開いていました。でも、あとから来た折木さんは、鍵が閉まっていたと言っています。不思議です。（→折木奉太郎、福部里志）
 - ・ 駄々をこねて漸く答えてくれたんですが、その答えを聞いた私は泣きました。恐ろしかったのか、悲しかったのか、大泣きました。これ以上は何も覚えていません。
(→折木奉太郎)
 - ・ でも覚えていてはならないって書いてあります。もし調べたら不幸なことになるかもしれません。（→折木奉太郎）
- C. 「Free！」竜ヶ崎怜（男）・・・独自の美意識を持つ高校一年生。
- ・ 掛け持ちもしません。そもそも、人間は陸上で生きるために進化したんです。
(→葉月渚)
 - ・ 仮入部で良ければその合同練習に行ってもいいです。（→葉月渚）
 - ・ 当然です。昨日は調子が悪かったです。（→葉月渚、橘真琴）
 - ・ 答えはすぐそこにあつたんですよ！それはこの水着のせいです！
(→葉月渚、橘真琴、七瀬遥)

D. 「響け！ユーフォニアム」川島緑輝（女）・・・中学はお嬢様校。前向きな性格。

・みどりって呼んで頂けると有り難いなって思ってます。そして、コンパスというのは楽器の名前です。こーんな大きな、ヴァイオリンのお化けみたいなやつです。

(→黄前久美子、加藤葉月)

・そうですね。やっぱり希望する楽器になるのが一番かと思います。

(→田中あすか、黄前久美子)

・ダメです！自らの手で巡り合わなければ意味がありません。

(→黄前久美子、加藤葉月)

・みどりも滝先生の特訓が観たかったです。(→黄前久美子、加藤葉月)

女性キャラクターも男性キャラクターも、「です」「ます」の「丁寧語」の使用がとても多い。金子（1994）によると、「です」「ます」の表現は、敬語を使いこなせない若者がこれらの表現を使って凌ごうとするそう。確かに、尊敬語や謙譲語と違い文末につけるだけで言葉が丁寧な印象になると、文末が変わるだけで言葉が大きく変わらないため、若者には受け入れやすい言葉ではないだろうか。

調査したなかで、敬語を常に使用する女性キャラクター3人は、全員が柔らかい性格で、清楚なお嬢様であり、それぞれの作中で最も女の子らしい。このことから、敬語使用はキャラクターのお嬢様らしい気品、女の子らしさを表していると言えるのではないだろうか。また、敬語を極端に使用するため、他のキャラクターとは明らかに差別化されて特徴づけられるため、たくさんのキャラクターが出るアニメ作品において、個性を出す道具として敬語が用いられていると考えられる。現代の若者に「～わ」「～かしら」などf指標形式を使用する人は見られないため、お嬢様などの少し特別な女性を描く際には、f指標形式の使用をおさえ、敬語という若者にとって日常で使う言葉とは少し違う言葉を使用しているのだと考えられる。女性キャラクターの敬語使用について考えてみて、若者向けアニメ作品では、敬語離れよりも女性らしい話し言葉（f指標形式の使用）離れが進んでいるように思えた。

一方、唯一敬語を使用する男性キャラクターの竜ヶ崎怜についてだが、このキャラクターは理論で行動する、独自の美意識を重視するキャラクターである。「理論と計算によって完璧なフォームを導き出すことができる。」「金づちなんて僕の美意識に反する。」という発話から分かるように、理論と計算、美しいものに強い思いを持っており、それ以外のものは拒絶するほどの拘りを持っている。現実の若者で敬語を日常で使用する男

性は思い当たらず、比較は難しいが、アニメやドラマにおいて、何か特定のジャンルに強い拘りを持つような所謂「オタク」の男性が描かれる際に、「敬語」の多用が見られると考えた。また、まったく泳げないのに「僕は少なくとも浮くので金づちではありません。例えるならそう、潜水艦だ。」と言うなど、自分を高めるような一面が多々あり、ナルシストな男性が敬語を使用するのではないかと考えた。

5. まとめ

若者向けのアニメ作品を調査して分かったことは、キャラクターの話し言葉は、「個性を強く出す」か、「現実には寄せる」かどちらかに分類されるということだ。「個性を出す」というのは、「f' 指標形式」の多い「氷菓」の伊原摩耶花や「m' 指標形式」の多い「氷菓」の折木奉太郎や「Free!」の松岡凜、それから敬語使用の多いキャラクターたちのことだ。これらのキャラクターは鋭さ・厳しさを持つ性格か、別荘を持つほどのお嬢様と言ったように、現実の若者にはあまり見られない個性を持っている。幼児向けアニメ、魔法やお嬢様が登場するようなディズニー作品では、普通に使用されている女性らしい話し言葉、男性らしい話し言葉は、日常を舞台にした若者向けのアニメではあまり使用されず、使用するとしても、社交的ではない人物が多用することが分かった。また、調査前は品のあるお嬢様は女性らしい話し言葉を使用するのではないかと予想していたが、それは外れ、「敬語」が多い結果となった。若者と敬語の距離は確かに遠いが、それ以上に、若者と女性らしい話し言葉の距離が遠いということだろう。「敬語」と言っても、「です」「ます」を使用するだけの簡単なものが多いため、聴いていても違和感がそれほどなく、「敬語」によってキャラクターの個性を出しつつ、若者の耳に馴染みやすいものになっていると考えられる。

今回、多くのキャラクターが使用していたのは、男女共に違和感なく使用でき、現実の若者も頻繁に使用する「～だよ」「～だね」「～よ」「～ね」といった中性的な話し言葉だった。そのため、視聴者はアニメに登場するキャラクターたちに、親近感を抱く事が出来るのだろう。幼児向けのアニメは何十年も放送されているような長寿作品が多く、また、子供たちに性差を認識させる教育的な側面を持っている。一方、若者向けのアニメ作品は、日々多くの作品が生まれ、基本的にほとんどのアニメが3か月という短い期間で放送される。その中でより多くの視聴者を得るためには、心を惹きつける要素が必要である。調査前、若者向けのアニメ作品には高校時代の青春を描くものが多いと感じ、その理由を疑問に思ったが、それは、青春というものは若者にとって特別な瞬間であり、

心を強く惹きつけるものだからではないだろうか。そして、青春と日常に生きる人物を描く際には、現実の若者が使うリアルな話し言葉を使用することで、視聴者に親近感を抱かせるのだ。

6. 参考文献

- 金子泰子 (1994) 「若者と敬語表現」『上田女子短期大学紀要』17号、上田女子短期大学、p31-45
- 佐竹久仁子 (2003) 「テレビアニメの流布する『女ことば/男ことば』規範」『ことば』24号、現代日本語研究会
- 平野真希 (2007) 「話しことばの研究：宮崎駿監督作品を中心に」2007年東京女子大学卒業論文
- 水本光美・福盛壽賀子・福田あゆみ・高田恭子 (2006) 「ドラマに見る女ことば『女性文末詞』-実際の会話と比較して-」『国際論集』第4号、北九州市立大学、p51-70
- 水本光美・福盛壽賀子・高田恭子 (2008) 「ドラマに使われる女性文末詞-脚本家の意識調査より?」『日本語とジェンダー』第8号、日本ジェンダー学会、p.11-26

「けいおん！」 公式ホームページ

(http://www.tbs.co.jp/anime/k-on/k-on_tv/index-j.html) 2016年9月15日閲覧

「氷菓」 公式ホームページ

(<http://www.kotenbu.com/>) 2016年9月15日

「Free！」 公式ホームページ

(<http://1st.iwatobi-sc.com/>) 2016年9月16日閲覧

「響け！ユーフォニアム」 公式ホームページ

(<http://tv.anime-eupho.com/>) 2016年9月16日閲覧

〈使用した資料〉

- 『けいおん！1』『けいおん！2』（2009年、京都アニメーション、ポニーキャニオン）
- 『氷菓1』『氷菓2』（2012年、京都アニメーション、KADOKAWA / 角川書店）
- 『Free！1』『Free！2』『Free！3』（2013年、京都アニメーション、ポニーキャニオン）
- 『響け！ユーフォニアム1』『響け！ユーフォニアム2』
- 『響け！ユーフォニアム3』『響け！ユーフォニアム4』（2015年、京都アニメーション、ポニーキャニオン）

(いわざき まこと 2017年日文卒)